

みんなとともに笑顔いっぱい — 「学びあい」「認めあい」「高めあい」 —



みんなとともに



昨日は、授業参観、学級懇談会にお出でいただき、ありがとうございます。検温への協力をいただいたり、前半後半に分かれての参観であったりと、まだまだ従来の形には戻すことができません。しかし、昨年度に比べれば保護者の皆様の来校の機会を多く作ることができていることを、うれしく思っているところです。これからも子どもを「真ん中」において、情報交換を密にしていきたいと考えています。



「登下校の安全確認」についてのお願い

先月、千葉県で児童5人が死傷する痛ましい交通事故がありました。子どもには全く非がないのですが、命を失ったから加害者を責めても大変残念なことです。皆の目で、子どもたちを交通事故から守っていきましょう。

【「登下校の考え方」について】

「登下校」についての“児童への指導”は学校でします。ただし、「ひとりで歩く」「友だちと一緒に歩く」「保護者と一緒に歩く」等は、「保護者の判断」と考えています。

※「地区交通安全対策協議会」「地区交通安全母の会」の皆様が、要所で立哨をしてくださっています。「地域全体で見守っていただけることは、大変ありがたいことだ」と考えています。

【「通学路」について】

「旧国道4号」「旧国道115号」など“人目につきやすい道路”を「通学路」としています。なるべく早く通学路に出ることを推奨していますが、それらの道路は交通量が多く交通事故の危険をはらんでいるというジレンマがあります。「どこを通るか」は最終的には「保護者の判断」になりますので、お子様との確認をお願いします。

※「旧国道115号」の南町付近では、歩道が広くなり、安心感が増しました。

【「車で送迎する際の留意点」について】

□「敷地東側」の道路は、「7:30~8:30」と「13:00~15:00」は「進入禁止区域」になっています。安全確保のために、最近も頻りに警察が取り締まりを行ってくださっています。

□「敷地西側」の道路は、常時侵入が可能です。ただし、登下校時は、「児童の歩行」と「車」の動線が重なり、大変危険です。登校の際は、「車」で学校に近づかないようにお願いをしています。

【過去の「交通事故」について（登下校時に限らず）】

ここ2年間は車との交通事故はありませんが、3年前に5件の交通事故がありました。その時の特徴は、次のとおりです。

- 下校後に遊びに出かけた際の「帰り道」での事故が多かった。特に、「午後4時半過ぎ」の事故が多かった。
- 自転車乗車中の「交差点」での事故が多かった。特に「小さな交差点」での事故が多かった。
- 上学年男子の事故が多かった。

【校長のつぶやき】 その84 「ブタもおだてりゃ木に登る(?)」

「校長のつぶやき その77『目標達成!』」で「ブタもおだてりゃ木に登る(?)」と書いた。「?」を付けたのには訳がある。私の頭の中では「サルもおだてりゃ木に登る」という言葉の方が、よりインパクトされていたからだ。では、この2つはどう違うのか。

「サルもおだてりゃ木に登る」

できて当たり前のことをほめられて、調子に乗ってやってみせることは滑稽なことである、という例え

「ブタもおだてりゃ木に登る」

能力の低いものでもおだてられると、調子に乗って能力以上のことができちゃう、という例えという意味なので、「サル」ではなく「ブタ」にした。そうしたら、「イヌ」も木に登るらしい。

「たのめば、犬も木に登る」

人にたのまれると、できるはずのないことまで、何とかやってみようという気になる、という例え

結局は、方法は違えども、「サル」も「ブタ」も「イヌ」も「木」には登るのだ。「子ども」を「動物」に例えては失礼ではあるが、「ほめたり」「おだてたり」「たのんだり」と子どもを“よい気分”にさせることが肝要なのだろう。逆に言うと、その「子ども」に合った方法を使えば、“目標”は達成できるということである。何もこれは「子ども」だけの話ではなく、「おとな」も同じであることはいままでもないことだが…。